



TBS
HOLDINGS

85

第85期中間報告書 平成23年4月1日～平成23年9月30日



代表取締役社長

石原信爾

CONTENTS

目次

○株主の皆様へ	2
○連結事業概況	4
○連結財務諸表（要約）	10
○企業集団の概略	11
○当社の現況	12
○ネットワーク	14
○株主メモ	16

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、ありがとうございます。お礼申し上げます。

さて、当社第85期事業年度第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から9月30日まで）の事業概況を中間報告書としてとりまとめましたので、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

この当第2四半期連結累計期間、日本のメディアは、東日本大震災の報道を続けながら、7月に44都道府県で地上デジタル放送へ移行しました。ラジオ・テレビが本来持っている公共的使命を果たしつつ、その一方で、次世代を担う「新しいメディア」としてのスタートを切ることになりました。

この大きな変革期を乗り切るために、株式会社東京放送ホールディングスは、グループの組織改革を行いました。

7月には、株式会社BS-TBSの株式を当社が51.15%まで追加取得し、株式会社BS-TBSを連結子会社化しました。TBSテレビとBS-TBS、それぞれがメディア特性を活かしながら連携して収益拡大を図ること、さらには、経営資源を共有してシナジーを実現する、という狙いです。

このことは、TBSグループが掲げる3つの課題、すなわち「放送事業の強化」「グループの収益力向上」「収入源の多角的拡大」に対する取り組みの確固たる一歩、と言い換えることもできます。今後もより一層、組織の活性化を図っていく所存です。

ちなみに、株式会社BS-TBSは、当期間において売上高で初めて50億円を超え、営業利益は前年同期比41.5%増の6億2千万円と好調で、さらに事業の拡大を図ってまいります。

当期間において、株式会社東京放送ホールディングスの連結決算は、前年同期と比べて減収ながらも増益となりました。

TBSグループの中核、TBSテレビの視聴率は、当期間において依然として厳しい水準ながら、前年同期比では全日帯0.4ポイント増、ゴールデンタイム0.8ポイント増、プライムタイム0.6ポイント増で、はっきりとした回復傾向が見られました。特に、情報系番組の「みのもんたの朝ズバッ！」と「ひるおび！」は、同時間帯トップグループの仲間入りを果たしています。

また、当期間においては、「世界陸上韓国テグ」が大きな成功を収めたほか、ドラマ「JIN-仁-」が視聴率のみならず、内容面でも高い評価を得ることができました。

TBSテレビの広告収入は、当期間のスタートは大変厳しいものでした。ここへ来て復調しつつありますが、先行きはなお不透明な状況です。引き続きコストコントロールを行い、緊張感を持って経営にあたる所存です。

一方、東日本大震災で存在感をあらためて示したラジオ業界ですが、経営的には厳しい状況にあります。そうしたなかで、株式会社TBSラジオ&コミュニケーションズ

は、平成13年から10年余りにわたって首都圏で聴取率トップの座を維持し、これを背景に経営的にも健闘しております。

また、当社グループの認定放送持株会社化への移行に反対した楽天株式会社から、当社株式の買取請求を受けており、本年5月に自己株式の買取りを行いました。この買取った自己株式の用途につきましては、当社の企業価値向上の取り組みと資本政策のあり方を含め検討しているところでございます。

さらに、本年11月、当社は株式会社ディー・エヌ・エーと株式会社横浜ベイスターズの株式を譲渡する契約を交わしました。これは、日本プロフェッショナル野球組織で正式な承認を得て実行される契約となっております。なお、譲渡後も、当社は株式の一部を引き続き保有し、今後とも野球文化の維持・振興に努めてまいる所存です。

TBSグループは、今後も休むことなく改革を実行し、ブランドを高め、株主の皆様からの負託に応えてまいりたいと考えています。

なお、当期の中間配当金につきましては、1株につき5円、支払開始日は12月9日とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、今後とも当社グループに対し変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年12月

BUSINESS OVERVIEW

当第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から9月30日まで）における日本経済は、3月に発生した東日本大震災の影響で激しく動揺しました。企業のサプライチェーン復旧につれ持ち直しの動きも見られましたが、厳しい雇用情勢などを背景に、その後、再び足踏み状態となりました。ユーロ圏の財政問題に端を発した国際金融市場の動揺と、それにとまなう歴史的な円高がマイナスに働いたほか、福島第一原子力発電所の事故を契機に電力不足への不安も広がりました。

放送業界におきましては、東日本大震災の影響で、企業が広告費支出に慎重な姿勢を見せて、4～5月の東京地区におけるスポットCM投下量は前年同期を大きく下回る結果となりました。しかし、6月に入ると前年並みに回復し、9月には前年同期を大きく上回りました。

このような状況のもとで、当社グループは、基幹となる地上波テレビの番組強化に全力を傾注するとともに、赤坂サカスでのイベント活動を通じて事業収入・営業収入の積み上げを図るなど、広範囲な事業分野での収益確保に努めました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの連結業績は、売上高が1,657億5千9百万円で前年同期に比べ0.6%の減収となりましたが、経常利益は36億8千8百万円で前年同期に比べ35.5%の増益となりました。また、四半期純利益は、前年同期に比べ投資有価証券評価損が減少したため4億7千2百万円となり、前年同期に比べ31億6千4百万円改善いたしました。

BROADCASTING

当第2四半期連結累計期間における放送事業の売上高は、968億2千5百万円で前年同期に比べ0.3%の増収となりましたが、営業損失は21億3千5百万円で、前年同期に比べ6億7千2百万円悪化しました。



世界陸上韓国テグ
写真:フォートキシモト



テレビ部門

TELEVISION

地上波テレビのタイムセールスにおきましては、レギュラー番組セールスは前年同期並みで推移しましたが、単発番組セールスは「世界陸上韓国テグ」が売上に大きく貢献して、トータルでは前年同期の実績をわずかに上回りました。

スポットセールスにおきましては、東日本大震災の影響で、東京地区における4～5月のCM投下量が前年を大きく下回ったこともあり、前年同期の実績を割り込みました。

業種別では、「医薬品」「化粧品・トイレットリー」「流通」「通信・放送」といった分野が堅調な伸びを示す一方、東日本大震災の影響で「自動車・輸送機器」が前年同期を大きく下回りました。

当第2四半期連結累計期間における平均視聴率は、「みのもんたの朝ズバッ!」「はなまるマーケット」「ひるおび!」といった情報系のベルト番組が牽引役となり、全日帯は前年同期に比べて0.4ポイント上回る6.8%と



JIN -仁-



渡る世間は鬼ばかり



華和家の四姉妹



ハンチョウ〜神南署安積班〜



ぴったんこカン・カン

なりました。また、ゴールデンタイム（19～22時）が0.8ポイント上回る10.1%、プライムタイム（19～23時）も0.6ポイント上回る10.2%と、すべての時間帯で視聴率が大幅に改善しました。さらに、当期間の最終週においては、全日帯・ゴールデンタイム・プライムタイムの週平均視聴率三冠を達成し、10月以降に向けて大きな弾みがつきました。

バラエティでは、「ぴったんこカン・カン」「中居正広の金曜日のスマたちへ」「ひみつの嵐ちゃん！」が、引き続き好調を維持しています。また、木曜19時から2時間番組「スパモク!!」では、レギュラー番組に育つ可能性を秘めた単発企画が2桁台の視聴率をマークするなど、健闘を見せました。スペシャル番組では、4年目を迎えた「キングオブコント」が、平均視聴率14.3%を獲得して人気番組の実力を発揮しました。一方、本年4月にスタートした「世紀のワイドショー！ザ・今夜はヒスト

リー」「教科書にのせたい！」「ブラマヨ衝撃ファイル 世界のコワ〜イ女たち」などは、視聴率向上に向けて努力を重ねています。

ドラマでは、TBS開局60周年記念企画の日曜劇場「JIN-仁-」が、前シリーズを上回る平均視聴率21.3%をマークするとともに、最終回2時間スペシャルでは平均26.1%、瞬間最高視聴率31.7%を記録しました。このほか、日曜劇場「華和家の四姉妹」、金曜ドラマ「生まれる。」「美男（イケメン）ですね」、月曜の「ハンチョウ〜神南署安積班〜」なども好評でした。平成2年にスタートした「渡る世間は鬼ばかり」は、最終回2時間スペシャルで平均視聴率22.2%を獲得するなど、最後までファンに愛され有終の美を飾りました。

スポーツでは、TBS開局60周年記念放送の「世界陸上韓国テグ」が、男子ハンマー投げ、室伏広治選手の金メダル獲得も追い風になり、プライムタイムにおける競



はなまるマーケット



Nスタ



みのもんたの朝スパス！



ひるおび！



NEWS23クロス

技放送枠で平均視聴率12.4%を記録して、TBSテレビが誇るスポーツコンテンツの底力を示しました。また、8月10日には、サッカー「キリンチャレンジカップ2011 日本vs韓国」が平均22.2%、その後放送した「ボクシング 井岡一翔世界タイトル初防衛戦」も平均16.6%の視聴率を記録し、スポーツ2番組3時間超の放送枠で平均20.3%の視聴率を獲得しました。

報道では、「Nスタ」と「NEWS23クロス」の二枚看板を中心に、東日本大震災関連のニュースを積極的に発信し続けました。TBSテレビをキーステーションとするJNNは、5月に気仙沼に三陸臨時支局を設け、日々被災地からの取材・報道に努めたほか、震災後3ヶ月・半年の節目にあたっては特別番組を編成して、被災地の現状や原発事故の情報を掘り下げて伝えました。

震災関連では、7月に大型スペシャル番組「音楽の日」を編成し、東北地方からのライブ中継も交えて「歌の力

でニッポンを元気づける」をテーマに、テレビ史上初となる7時間を超える音楽番組に取り組み、ゴールデン・プライムタイムで平均視聴率16.2%を記録したほか、被災地はじめ全国の視聴者からの温かい支持をいただきました。

BSデジタル放送は、本年9月末に受信機出荷総数が1億2,000万台に到達するなど、順調に普及しています。一方で、BSデジタル放送には、今年度中に19チャンネルが新規参入するなど、競争は激化しています。このような経営環境のもとで、株式会社BS-TBSは、ゴルフトーナメントの完全生中継や3D番組のレギュラー放送など魅力的なコンテンツを供給して、収益力の強化を図っています。なお、同社は、本年7月1日をもって当社の連結子会社となり、新たな経営のスタートを切りました。

*視聴率は世帯視聴率。ビデオリサーチ調べ(関東地区)



久米宏 ラジオなんですけど



小沢昭一の小沢昭一的ころこころ

タイムセールスにおきましては、好調な聴取率を背景に、飲料・製薬メーカーなどの大手スポンサーや官公庁などの広告出稿が増加したものの、ネット番組の減少が響き前年同期の実績を下回りました。

スポットセールスにおきましては、官公庁や自動車・日用品メーカーからの広告出稿が増加したほか、番組パーソナリティーによる生コマーシャルが好調で、前年同期の実績を上回りました。

編成面では、好調に推移している平日以外でも、土曜日の「久米宏 ラジオなんですけど」、日曜日の「安住紳一郎の日曜天国」など、週末のワイド番組がリスナーの支持を得ています。また、名物番組の「小沢昭一の小沢昭一的ころこころ」は、本年5月13日に放送10,000回を迎えました。首都圏の個人聴取率調査では、平成13年8月期の調査以降61期連続、10年2ヶ月にわたってトップを堅持し、首都圏ラジオのリーディングカンパニーの座を不動のものにしています。本年9月17～19日には、TBS開局60周年記念として、赤坂のSacas



感謝deサカス！

東日本大震災発生から半年～
「声」が伝える被災地の今～

広場を舞台に「感謝deサカス！」と題して番組の公開生放送や公開録音を行うとともに、TBSラジオ60年の歴史を振り返る展示や物品の販売ブースなどを出店し、3日間合計で約9万人のお客様をお迎えしました。

東日本大震災関連では、「爆笑問題の日曜サンデー」が福島県いわき市内の中学校から生放送を行ったほか、9月11日には特別番組「東日本大震災発生から半年～『声』が伝える被災地の今～」を放送して、被災地での生活の現状を中心にお伝えしました。また、この後も、上記の「感謝deサカス！」で実施されたチャリティーオークションと、当日のTBSラジオオリジナルグッズの売上で携帯ラジオを購入し、被災地の皆様にお届けする予定です。

放送関連事業では、音声コンテンツの有料配信サイト「らじこん」や、番組とコラボレートした物品販売事業などが堅調に推移したほか、ハウジング事業のコスト削減効果もあって、前年同期を上回る成績を収めることができました。

MULTI VISUAL VENTURES AND CULTURAL EVENTS



メリは外泊中



恐竜博2011



コーラスライン
©Photo by Phil Martin



ミュージカル ロミオ&ジュリエット
撮影 宮川舞子

映像・文化事業の売上高は、612億7千6百万円で前年同期に比べ1.1%の減収となりましたが、営業利益は11億7千6百万円で、前年同期に比べ16億2千万円改善いたしました。

イベントの分野では、ブロードウェイから招聘した「コーラスライン」を筆頭に、「ミュージカル ロミオ&ジュリエット」「舞台 淋しいのはお前だけじゃない」「舞台 タンブリングvol.2」などの作品を、赤坂ACTシアターで上演しました。また、人気韓流スター、チャン・グンソクが主演した韓国のテレビドラマ「メリは外泊中」のライブイベントを東京・大阪で開催し、ファンの期待に応えました。根強い人気に支えられている熊川哲也Kバレエカンパニーは、「ロミオとジュリエット」でファンを魅了したのに続いて、秋ツアーの「白鳥の湖」も快調に幕を開けました。展覧会関係では、国立科学博物館で開催された「恐竜博2011」が、59万人に迫る入場者数を記録しました。さらに、TBS開局60周年記念「世界遺産 ヴェネツィア展」も、江戸東京博物館を皮切りに全国展開をスタートしています。

映像・ソフトビジネスの分野では、劇場映画「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメン

ト』を読んだら」や「こちら葛飾区亀有公園前派出所 THE MOVIE 勝どき橋を封鎖せよ！」などの話題作を公開しました。また、昨年公開された劇場映画「SPACE BATTLESHIP ヤマト」のDVDは、発売初週にして邦画ブルーレイディスクの歴代最高売上を記録するなど、好調な売れ行きを示しています。ドラマのDVDでは、「JIN-仁-完結編」が期待を上回るセールスとなる一方、韓国ドラマ「メリは外泊中」も累計5万セットを超える出荷数を記録しています。アニメ作品では、「インフィニット・ストラトス」が圧倒的な人気を誇るほか、「EXILE ATSUSHI Premium Live ~ The Roots ~」、「ウンナンの気分は上々。」「マルさまあ〜ず」といった音楽、バラエティ作品もファンの支持を得ています。

番組販売ビジネスでは、番組のコンセプトなどを販売する海外向けのフォーマット・ビジネスが好調で、「SASUKE」は150を超える国と地域に販売されています。さらに、この夏には、日本のテレビ番組として初めて、アメリカ3大ネットワークのひとつNBCのゴールデンタイムで放送され注目を集めました。このほか、「ブレインサバイバー」などクイズ番組のフォーマットも、海外で人気を呼んでいます。



もし高校野球の女子マネージャーが
ドラッカーの『マネジメント』を読んだら
©2011「もしドラ」製作委員会



JIN -仁-

メリは外泊中 インフィニットストラトス

ペイテレビビジネスでは、動画配信サービスの「TBS オンデマンド」が、ゲーム機やスマートフォンなどの新たな端末に向けた配信を加速させる一方、「JIN-仁-」や韓国ドラマ「メリは外泊中」などの人気コンテンツで、売上を大幅に伸ばしました。また、CS放送の「TBSチャンネル」「TBSニュースバード」は、コンテンツの強化を図り、ケーブルテレビやスカパー！・ひかりTVなどあらゆるプラットフォームで順調に加入世帯数を伸ばしています。

ライセンスビジネスでは、人気ドラマ「JIN-仁-」が、大手コンビニエンスストアチェーンとのコラボレーション戦略で、劇中に登場する安道名津（あんどうなつ）などの商品化と番組宣伝の融合を図り、売上を伸ばしました。「美男（イケメン）ですね」は、キャラクター商品や関連書籍、TBSishop限定の特典付きDVDセットが人気を呼び、当期間における番組関連グッズのなかで、最大の売上を記録しました。このほか、「ひるおび！」のレジかごクーラーバッグ付き書籍も、8万部のヒットになりました。ショッピングビジネスでは、東日本大震災の影響が懸念されたものの順調に推移し、ショッピング特別番組の売上も好調でした。

デジタルビジネスでは、羽田空港ターミナルビルや

首都圏にある主要大学の生協食堂に設置したデジタルサイネージ（電子看板）が好評で、さらなる展開を図っています。インターネット専用番組の「ギャルトーク天国」は、ブログ連動のタイアップ広告により、独自のスポンサー開拓が進んでいます。

不動産事業

REAL ESTATE BUSINESS

不動産事業の売上高は、76億5千7百万円で前年同様に比べ7.8%の減収となり、営業利益は33億4千3百万円で同12.0%の減益となりました。

不動産事業では、開業3周年を迎えた「赤坂サカス」が、各種の興行や「Sacas広場」での様々なイベントを通じて、文化・エンタテインメントの発信地としての人気を確立しています。



連結財務諸表（要約）

連結貸借対照表

（単位：百万円）

区 分	当第2四半期 連結会計期間末 (平成23年9月30日現在)	前第2四半期 連結会計期間末 (平成22年9月30日現在) (ご参考)	前連結会計年度末 (平成23年3月31日現在) (ご参考)
(資産の部)			
流動資産	131,835	173,920	184,924
固定資産	397,250	409,297	408,098
有形固定資産	216,930	223,126	220,227
無形固定資産	32,008	34,046	32,905
投資その他の資産	148,311	152,125	154,965
資産合計	529,086	583,217	593,023
(負債の部)			
流動負債	84,655	119,456	117,058
固定負債	148,022	129,660	131,305
負債合計	232,678	249,117	248,364
(純資産の部)			
株主資本	278,120	324,872	327,094
資本金	54,986	54,986	54,986
資本剰余金	60,254	60,254	60,254
利益剰余金	211,850	209,724	211,948
自己株式	△48,971	△94	△96
その他の包括利益累計額合計	5,513	△681	7,216
少数株主持分	12,774	9,909	10,348
純資産合計	296,407	334,100	344,658
負債・純資産合計	529,086	583,217	593,023

連結損益計算書

（単位：百万円）

区 分	当第2四半期 連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	前第2四半期 連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日) (ご参考)	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) (ご参考)
売上高	165,759	166,815	342,754
売上原価	120,024	120,640	245,305
売上総利益	45,735	46,174	97,448
販売費及び一般管理費	43,354	44,286	89,742
営業利益	2,380	1,888	7,705
営業外収益	2,554	2,085	4,151
営業外費用	1,246	1,250	2,641
経常利益	3,688	2,722	9,215
特別利益	214	1,571	6,904
特別損失	1,782	8,338	12,487
税金等調整前四半期純損益	2,120	△4,044	3,632
法人税、住民税及び事業税	1,109	1,213	3,657
法人税等調整額	876	△1,729	258
少数株主損益調整前四半期純損益	133	△3,528	△284
少数株主利益（△損失）	△339	△836	△387
四半期純利益（△純損失）	472	△2,692	103

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

区 分	当第2四半期 連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	前第2四半期 連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日) (ご参考)	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) (ご参考)
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,590	15,133	30,036
投資活動によるキャッシュ・フロー	△13,187	5,409	6,278
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,899	△11,147	△17,037
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△9,510	9,332	19,185
現金及び現金同等物の期首残高	71,434	52,249	52,249
現金及び現金同等物の四半期末残高	61,924	61,582	71,434

— 企業集団の概略 —

放 送 事 業

<p style="text-align: center;">番組制作・販売</p> <p>(株)ビユーキャスト (株)ジャスク (株)エフエフ東放 (株)ドリマックステレビジョン (株)テレコムサウন্ズ (株)TBSテレビジョン 「コミュニケーションズ」 (株)TBSラジオ&</p>	<p style="text-align: center;">放送関連技術提供</p> <p>(株)東通* (株)フロカム (株)赤坂ビデオセンター (株)ティエルシー* (株)赤坂グラフィックスアート (株)アックス</p>	<p style="text-align: center;">投資・情報提供・調査研究等</p> <p>(株)TBSメディア総合研究所 TBSインターナショナル(米国)</p>	<p style="text-align: center;">衛星放送、データ放送</p> <p>(株)トマデジ* (株)BS-TBS</p>
<p>番組制作等</p> <p>販売委託等</p> <p>番組制作</p>	<p>番組制作協力等</p> <p>制作協力委託</p> <p>番組制作協力等</p>	<p>調査研究等</p> <p>情報提供</p> <p>業務委託等</p>	<p>番組制作等</p> <p>業務委託等</p>

(株)東京放送ホールディングス・(株)TBSテレビ

<p style="text-align: center;">ビデオソフト等の企画・制作等</p> <p>(株)TCエンタテインメント(株) (株)TBSサービス</p>	<p style="text-align: center;">各種イベントの企画・制作・運営等</p> <p>(株)TBSトライメディア</p>	<p style="text-align: center;">音楽著作権・音声制作・販売等</p> <p>(株)日音</p>	<p style="text-align: center;">通信販売</p> <p>(株)クラブマルシェ</p>	<p style="text-align: center;">CG制作・販売等</p> <p>OXYBOT(株)</p>	<p style="text-align: center;">野球興行</p> <p>(株)横浜ベイスターズ</p>	<p style="text-align: center;">販売・小売等</p> <p>(株)RGMマーケティング* 美恋商貿(上海)有限公司 マキシムドパリ(株) (株)CPCコスメティクス ショップングクラブ (株)フライトアップ ホールディングス (株)スタイリングライフ</p>
<p>業務委託等</p> <p>ビデオ制作等</p>	<p>業務委託等</p>	<p>業務委託等</p> <p>音声制作等</p>	<p>業務委託等</p> <p>物品販売委託</p> <p>物品販売</p>	<p>業務委託</p> <p>CG制作</p>	<p>放送権の購入等</p> <p>放送権</p> <p>放送素材の提供</p>	<p>共同事業等</p> <p>共同事業等</p>

映 像 ・ 文 化 事 業

11

当社の現況

会社の概要

(平成23年9月30日現在)

創 立	昭和26年5月10日(設立登記5月17日)
商 号	株式会社 東京放送ホールディングス (略称 TBSホールディングス)
英文表示	TOKYO BROADCASTING SYSTEM HOLDINGS, INC.
本 社	東京都港区赤坂五丁目3番6号(〒107-8006)
資 本 金	54,986,892,896円
事業内容	認定放送持株会社 傘下子会社およびグループの経営管理、不動産事業 ○テレビ放送 JORX-DTV 22チャンネル (リモコン 6チャンネル) ○ラジオ放送 JOKR 954kHz

株式の状況

(平成23年9月30日現在)

発行可能株式総数	400,000,000株
発行済株式の総数	190,434,968株
株主数	12,247名

大株主およびその持株数(上位10名)

株 主 名	持 株 数 (株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託口・株式会社電通口)	9,310,500	6.09
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	8,673,000	5.68
日本生命保険相互会社	7,821,735	5.12
株 式 会 社 毎 日 放 送	6,166,000	4.03
株式会社三井住友銀行	5,745,267	3.76
三 井 不 動 産 株 式 会 社	5,713,728	3.74
三 井 物 産 株 式 会 社	4,288,000	2.80
株式会社ビックカメラ	4,190,000	2.74
株 式 会 社 講 談 社	3,771,200	2.47
パナソニック株式会社	3,083,180	2.01

(注1) 当社は、平成23年9月30日現在、自己株式37,801,635株を保有しておりますが、上記大株主から除外しております。

(注2) 持株比率は、自己株式を控除して計算し、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。

(注3) 当第2四半期連結会計期間末の外国人等の議決権に占める電波法上の割合は8.41%であります。

(注4) 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(退職給付信託口・株式会社電通口)の持株数9,310,500株は、株式会社電通が保有する当社株式を退職給付信託に拠出したものであります。

取締役・監査役および執行役員

(平成23年9月30日現在)

代表取締役 会 長	井 上 弘
代表取締役 副 会 長	財 津 敬 三
代表取締役 社 長	石 原 俊 爾
常務取締役	衣 笠 幸 雄
常務取締役	武 田 信 二
常務取締役	石 川 康 喜
常務取締役	信 国 一 朗
取締役相談役	若林 貴世志
取 締 役	神 成 尚 史
取 締 役	藤 田 徹 也
取 締 役	難 波 一 弘
取 締 役	平 本 和 生
取 締 役	山 本 雅 弘
取 締 役	檜 田 松 瑩
取 締 役	高 嶋 達 佳
取 締 役	朝比奈 豊
常勤監査役	小 川 邦 雄
常勤監査役	小 田 忠 明
監 査 役	岡部 敬一郎
監 査 役	田 中 健 生
監 査 役	明 石 康
執 行 役 員	元 田 進
執 行 役 員	田 代 冬 彦
執 行 役 員	加 藤 嘉 一
執 行 役 員	桑波田 景信

(注1) 取締役のうち、山本雅弘、檜田松瑩、高嶋達佳、朝比奈 豊の4氏は社外取締役であります。

(注2) 監査役のうち、岡部敬一郎、田中健生、明石 康の3氏は社外監査役であります。

Network

TBSテレビとTBSラジオ&コミュニケーションズ

(TBS R&C) をキーステーションとする

テレビネットワークJNN (全国28局加盟) と

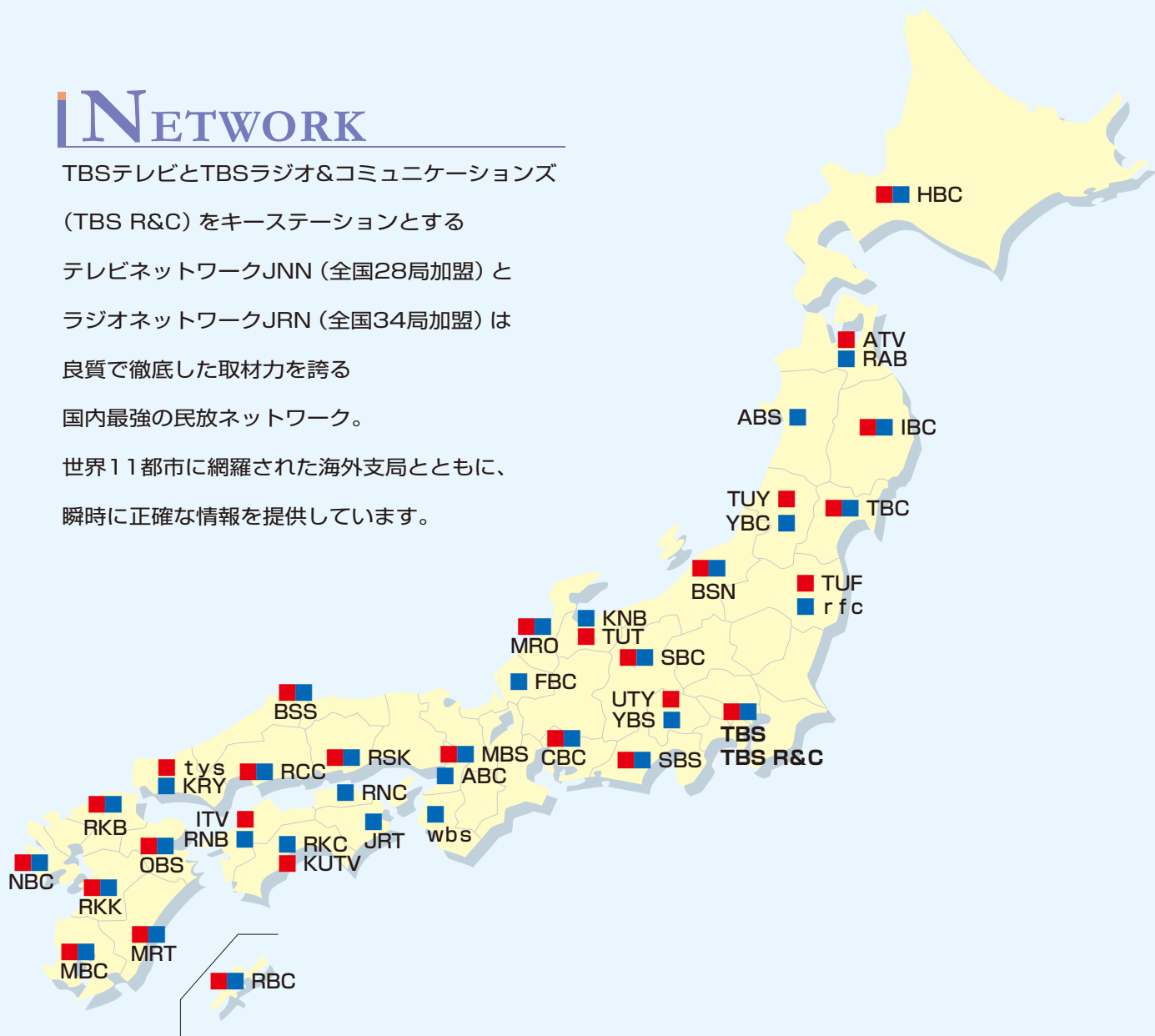
ラジオネットワークJRN (全国34局加盟) は

良質で徹底した取材力を誇る

国内最強の民放ネットワーク。

世界11都市に網羅された海外支局とともに、

瞬時に正確な情報を提供しています。



海外支局網



(Japan News Network)

HBC 北海道放送	SBC 信越放送	RKB RKB毎日放送
ATV 青森テレビ	SBS 静岡放送	NBC 長崎放送
IBC アイビーシー群衆	CBC 中部日本放送	RKK 熊本放送
TBC 東北放送	MBS 毎日放送	OBS 大分放送
TUY テレビユー山形	RCC 中国放送	MRT 宮崎放送
TUF テレビユー福島	BSS 山陰放送	MBC 南日本放送
UTY テレビ山梨	tyt テレビ山口	RBC 琉球放送
BSN 新潟放送	RSK 山陽放送	TBS TBSテレビ
TUT チューリップテレビ	KUTV テレビ高知	
MRO 北陸放送	ITV あいテレビ	



(Japan Radio Network)

HBC 北海道放送	YBS 山梨放送	RNB 南海放送
RAB 青森放送	SBS 静岡放送	RKC 高知放送
ABS 秋田放送	CBC 中部日本放送	RKB RKB毎日放送
IBC アイビーシー群衆	MBS 毎日放送	NBC 長崎放送
YBC 山形放送	ABC 朝日放送	OBS 大分放送
TBC 東北放送	wbs 和歌山放送	RKK 熊本放送
rbc ラジオ福島	BSS 山陰放送	MRT 宮崎放送
BSN 新潟放送	RSK 山陽放送	MBC 南日本放送
SBC 信越放送	RCC 中国放送	RBC 琉球放送
KNB 北日本放送	KRY 山口放送	TBS TBSラジオ
MRO 北陸放送	JRT 四国放送	R&C コミュニケーション
FBC 福井放送	RNC 西日本放送	

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主 確定日	3月31日
中間配当金受領株主 確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
外国人等の株主名簿への 記載又は記録の制限	放送法の規定にもとづき、当社定款には次の規定があります。 定款第8条 当社は、次の各号に掲げる者（以下、「外国人等」という）のうち第1号から第3号までに掲げる者により直接に占められる議決権の割合とこれらの者により第4号に掲げる者を通じて間接に占められる議決権の割合として総務省令で定める割合とを合計した割合が当社の議決権の5分の1以上を占めることとなるときは、放送法の規定に従い、外国人等の取得した株式について、株主名簿に記載又は記録することを拒むことができる。 1.日本の国籍を有しない人 2.外国政府又はその代表者 3.外国の法人又は団体 4.前3号に掲げる者により直接に占められる議決権の割合が総務省令で定める割合以上である法人又は団体
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL.0120-232-711（通話料無料）
上場金融商品取引所 単元未満株式の買取 1単元の株式数 買 取 手 数 料	東京証券取引所 100株 無料
公 告 の 方 法 インターネット ホームページ	東京都において発行する「毎日新聞」に掲載する。 http://www.tbsholdings.co.jp/

【株式に関するお手続きについて】

○ 証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
○ 郵送物等の 発送と返戻に関するご照会 ○ 支払期間経過後の 配当金に関するご照会 ○ 株式事務に関する一般的なお問合せ	株 主 名 簿 管 理 人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL.0120-232-711（通話料無料）
○ 上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。	

○ 特別口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
○ 特別口座から一般口座への振替請求 ○ 単元未満株式の買取請求 ○ 住所・氏名等のご変更 ○ 特別口座の残高照会 ○ 配当金の受領方法の指定（*）	特 別 口 座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL.0120-232-711（通話料無料）
○ 郵送物等の 発送と返戻に関するご照会 ○ 支払期間経過後の 配当金に関するご照会 ○ 株式事務に関する一般的なお問合せ	株 主 名 簿 管 理 人	<div>[手続き書類のご請求方法] ○ 音声自動応答電話によるご請求 0120-244-479（通話料無料） ○ インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufg.jp/daikou/</div>

（*）特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

【ご 注 意】

- 株主様の住所変更、配当金の振込みのご指定、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



TBS
HOLDINGS

株式会社 東京放送ホールディングス

〒107-8006 東京都港区赤坂五丁目3番6号
TEL.03-3746-1111（代表）

